

講演

歯科口腔病院創設を達成して —開放型病院、地域歯科診療支援病院を目指して—

伊東 隆利

●抄 録●

- ・はじめに：次世代の歯科医師に伝えたいこととして、私達はその創設を達成した「歯科口腔病院」作りをテーマとしてとりあげた。
- ・背景：社会から歯科医療に対する期待が大きいにもかかわらず、歯科医療提供体制が旧態状態としているので社会のニーズに応えきっていない。提供体制の一つとして「歯科病院」を考えた。
- ・病院化の必要性：歯科医療の次元医療を構築する上で、現在の医療制度の中では、医療機能が評価されている病院医療に進化せねばならない。
- ・開放型病床を持つオープンシステム歯科病院へ：病床については医療法で基準病床数が厳しく管理されているので、病院づくりには地域の賛同がなければならない。歯科大学がない県において、開放型病床の必要性は行政側も理解しており、当院はこの病床を持つことで病院化することができた。当院は引き続き地域歯科診療支援病院の認可を受けた。
- ・スタッフ・設備：他職種とのチーム医療、専門医による専門医療のために相応しいスタッフと設備が必要である。
- ・これからの問題点：開放型病床、地域歯科診療支援病院としての数々のDutyを果たさねばならないが、連携医療、それを支える医療文化が醸成されなければならない。

キーワード：歯科口腔病院、開放型病床・病院、歯科医療提供体制、医療機能分担、地域歯科診療支援病院

I. はじめに

歯科界の低迷、停滞が言われて久しくなるが、そうした中でも私達伊東歯科は、高齢社会が進む中で、国民の歯科医療ニーズに応えるため、また地域に根ざした医療を展開するために、有床化による口腔外科分野

の二次医療、各学会研修施設認定、歯科医師臨床研修制度への参加、訪問診療などに努力してきた。その結果たどり着いた地点が「歯科口腔病院の創設」であった。

次世代の歯科医師に「病院作り」についての背景の記録を伝えたいと思い報告する。

II. 創設の背景

医学・医療の進歩により日本人の平均寿命は、今や世界のトップレベルに達している。歯科治療が健康にいい影響を及ぼし、高齢社会を支えていることも徐々に判ってきた¹⁾。寿命が延びるだけでなく、生活の質



※冬期学会講師

(いとう・たかとし)
ICDフェロー
伊東歯科口腔病院 病院長

も求められ、ますます歯科治療の需要が高まっている。

しかしながら8020運動が進展しているものの、歯科医療提供体制は旧態依然として、必ずしも進歩しているといえない。特に全身状態に問題があり、高度な医学管理を受けている人々への安全・安心な歯科医療提供体制の構築は、緊急にして重大な問題であるにもかかわらず、解決されていない。

そうした中で歯科大学病院の果たす役割は大きく、地域別にみると歯科大学のある県とない県では歯科医療提供体制について格差が歴然としている。

日本中のいかなる状態の国民でも、一定レベル以上の医療が提供されるべきであるという考えから、医科の世界では提供体制が構築されてきたが、歯科界では未だ手つかずである。

「伊東歯科口腔病院」がある熊本県は人口185万人を数えるにもかかわらず、歯科大学が無く、かねてから歯科口腔領域の拠点施設が望まれていた。

このような時代背景、地域背景の中で伊東歯科医院（1939年故伊東武嗣先生創立）は平成21年5月1日より、全国初の「歯科口腔病院」の開院にたどりつき、高齢社会のニーズに歯科界から一つの答えを用意できたと考えた。

Ⅲ. 病院化の必要性（何故、病院か？）

医科の世界が高齢社会に対応して機能分化し、一次、二次、三次医療へと整備されたのに対し、歯科界は大多数の一次医療担当者と数少ない二次、三次医療担当者の構成である。国民に近いところでもかかりつけ歯科医による一次医療がなされ、より専門的、総合的な医療が必要とされる時は歯科病院、病院歯科による二次医療、三次医療が整備されなければ、高齢社会で必要とされる歯科医療に対応することは困難である²⁾。歯科の世界でも医院の医療と病院の医療への機能分化が必要となってきたのである。

そこですでに有床化し、専門医が集団として常勤し、専門的かつ総合的な医療を展開、地域の拠点としての機能を果たしていた伊東歯科医院は、現在の医療制度の中では、社会的にも、診療報酬の上でも、その機能が評価されている病院医療を目指すべきであるとの結論に達した。医院医療では成しえない病院医療の世界

を目指した。

Ⅳ. 開放型病床を持つオープンシステム歯科病院へ

病院を目指すには20床以上の病床を持つ必要があるが、医療法で各県の病床数は厳しく管理されている。熊本県は基準病床数を上回る病床がすでに存在し、一般病床による増床は1床たりとも許可されない状況であった³⁾。

しかしながら、熊本県については歯科大学がなく、歯科の病床が少ないこと、また中核的病院が、歯科医側にとっても患者側にとっても必要なことを県民、行政に私達は訴えた。私達の思いは県行政、厚生労働省にも通じ、5床の開放型病床を増床することで、この難問を解決することができた。これまでの19床に5床が加わって24床となった。

開放型病院はそのスタッフ・設備を地域の先生方、患者に開放し、病院歯科医師とかかりつけ歯科医による共同診療、共同指導を行うものであるから、当然スタッフ、設備には相応しいものが求められる。

Ⅴ. 当院のスタッフと設備

当院のスタッフとしては日本口腔外科学会指導医3名（伊東隆利、井原功一郎、國芳秀晴）、日本矯正歯科学会指導医2名（伊東隆三、市川和弘）、日本歯科麻酔学会専門医（吉武博美）、日本麻酔学会指導医・専門医（後藤俱子）、日本歯周病学会指導医（伊東隆利）、専門医（山内憲子）、日本口腔インプラント学会指導医（伊東隆利）、専門医（井原功一郎）、日本歯科



図1 伊東歯科口腔病院
Fig.1 Itoh Dento-Maxillofacial Hospital

表1 伊東歯科口腔病院建設のコンセプト
table. 1 Concept of construction of Itoh Dento-Maxillofacial Hospital

新施設建設の基本コンセプト

1. 救急医療の確立—1日24時間365日救急対応
2. 診療室は完全個室 プライバシー、インフォームドコンセントの確立
3. スタッフと患者の動線分離
4. 消毒滅菌系の確立—中央滅菌化、回収と配送 One Wayの確立
5. アメニティー、ホスピタリティーの向上
6. IT化、電子カルテ対策、画像一元化

補綴学会指導医（篠原直幸）等が常勤職員として、1つ屋根の下で専門的治療と横のつながりを大切にして治療に励んでいる。これを支えるスタッフとして、薬剤師（1名）、放射線技師（1名）、歯科衛生士（50名）、看護師（20名）、歯科技工士（10名）、栄養士（1名）、消毒・滅菌チーム等延べ150人余りでチーム医療を行っている。

設備としては3000㎡超の3階建ての新施設が平成20年1月に完成（図1）。3階は開放型病床5床を含む24床の病室、全身麻酔対応の手術室3室（内1室はクリーンルーム）、中央滅菌室、2階には24の個室化した外来治療室、画像センター、歯科技工室、消毒滅菌室、1階には麻酔科診療室、薬局、受付、事務、連携医療室、カルテ庫などの管理部門があり、高齢社会のいかなる歯科診療にも対応できるよう建築された。建築上のコンセプトについては表1に示す。

VI. これからの課題

これから本院のスタッフ、設備を地域の先生方に開放し、利用していただき、連携医療として一つ先の質の高い医療の提供を、患者と多面的にかつ深く向き合いながら構築していかねばならない⁴⁾。

具体的には開放型病床については年間を通じて20%の病床稼働率が法令で義務付けられている。県当局からは100%を目標に、と励まされている。また平成22年3月から認可を得た「地域歯科診療支援病院」に関しては、外来の紹介率が20%を超えねばならない、所定の手術件数が30例を超えねばならない、など幾多の

Dutyがある。近い将来、逆紹介率も要件の一つになると聞いている。

これらを果たすためにも現在本院で構築中である「連携歯科医の会」を充実させて連携医療を推進し、紹介歯科医が自ら私達の支援病院に出入りし、共同診療、共同手術、共同指導を行うと言った新しい歯科医のライフスタイルを創造していかねばならない。

VII. 終わりに

私達は1939年創立者伊東武嗣先生が遺した「口腔科診療」「歯科病院」という目標を70年かかったが、幸い実現できた。

表2 本院の理念、モットー、基本方針（5つの誓い）
table. 2 Our principle, creeds and basic policies (five pledges)

伊東歯科口腔病院の理念

歯科医療を通じて、健康生活に奉仕する

モットー

奉仕・友愛・向上

基本方針（5つの誓い）

1. 地域の方々の健康生活への奉仕
2. 救急医療から外来、入院診療、訪問診療まで、保健・医療・福祉・介護の一貫した実践活動
3. 高度先進医療の導入
4. 質の向上を目指した教育研修活動を行う
5. 職員が施設とともに成長できる働きがいのある職場風土を育む

表3 活動方針
table. 3 Action policies

1. 地域における歯科医療の担い手として一むし歯・歯周病の撲滅へ
2. 口腔外科疾患への対応 ～二次医療機関を目標として～
3. 顎・顔面・口腔領域の救急医療の確保
4. 医科歯科連携
5. 矯正診療への対応
6. 顎変形症に対する外科的矯正手術の実践
7. 顎関節症への対応
8. インプラント診療
9. 悪性腫瘍に対する診断、治療後の機能再建
10. 訪問歯科診療
11. 高齢者・障害者に対する歯科診療
12. 各種健診事業による地域歯科保健の確立・健康教育事業参加
13. 学術研究発表
14. 歯科医師研修事業
15. 国際交流

これからは「地域歯科診療支援病院」として地域社会の医療資源、社会資本、公器として発展することを目標として、次世代の歯科医師にその理念を伝えたい。これまでの活動の中で最も大切にしてきたことは理念とそれに基づく基本方針・活動方針の継承であった⁵⁾。表2、3に示す。

これらの活動を通して歯科界に明るい一石を投げたいと考えている。

参考文献

- 1) 石井拓男、他：日本歯科医師会、日本歯科総合研究機構、高齢者の口腔機能管理—高齢者の心身の特徴を踏まえた在宅歯科医療を進めるには—、日本歯科医師会・日本歯科総合研究機構発行、2008.
- 2) 石井拓男、伊東隆利、他：コミュニティと歯科医療をつなぐ連携システムの実践、病診連携で変わるかかりつけ歯科医機能、医歯薬出版株式会社、2001.
- 3) 熊本県（健康福祉部健康福祉政策課）編：第四次熊本県保健医療計画、熊本県発行、2003.
- 4) 伊東隆利：ライフステージに応じた歯科医院機能評価—それを支えるもの、当院での試み、日本歯科評論、680、189～197、1999.
- 5) 伊東隆利、他：新スタンダード歯科小手術、デンタルダイヤモンド社、2010.

Achieving the Creation of a Dento-Maxillofacial Hospital
—Aiming at an Open-Type Hospital, Regional Dentistry Support Hospital—

Takatoshi ITOH, D.D.S., F.I.C.D.

- Introduction: I have chosen, as my message to next-generation dentists, the theme of creating a “dento-maxillofacial hospital” which we achieved to establish.
- Background: In spite of greater social expectations for dentistry, the present regime of dentistry, being outdated, has not fully responded to social needs, therefore we devised the concept of “dental hospital” .
- Necessity of a hospital system: In constructing a multi-dimensional treatment of dentistry, the treatment must be evolved into the hospital treatment whose treatment function is highly evaluated, under the current medical care system.
- Toward an open-type dental hospital with open bed system: In terms of beds of sickness, as the standard number of beds is strictly controlled under the Medical Care Law, there needs to be regional consent in constructing a hospital. The public administration also understands the necessity of an open-bed system in a hospital in prefectures where there are no dental universities. We were able to establish a hospital by having this type of bed system. We have continued to receive the approval for regional dentistry support hospital.
- Staff and facilities: We need appropriate staff and facilities for team medical treatment with other types of businesses and professional medical treatment by specialists.
- Future issues: In relation to fulfilling a variety of necessary responsibilities as an open-bed system and regional dentistry support hospital we need to further develop interconnected medical treatment and its supporting medical culture.

Key words : Dento-Maxillofacial Hospital, Open-Bed System and Hospital, Present Regime of Dentistry, Medical Practice Sharing, Regional Dentistry Support Hospital